
俺の悪夢の冒険記

sakuyuu

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

俺の悪夢の冒険記

【Nコード】

N0714Z

【作者名】

sakuyu u

【あらすじ】

主人公、櫻弥祐がクラスにくるやいなやクラスメート天根緑に話しかけられクラス中で噂になっているという話をきく。そしてそのことに櫻弥祐は興味をもってしまったそれが悪夢の始まりの第一歩だった。

悪夢の始まり（前書き）

初めて書く作品ですので

どうか暖かい目で見てくださいと嬉しいです。

悪夢の始まり

俺の名前は、櫻弥祐さくらやすけ

普通の新進高校一年生である。

2011年11月1日午前8時

俺の学年は全部で240人近くいて1組40人程度いる
そしてクラスは全6組で俺はその中の3組だ。

3組はいつもは静かなクラスだが

今日クラスの前にきてみると3組はやけに賑っていた。

そしてクラスに入るやいなや俺はクラスメート

あまねみどり

天根緑に話しかけられた。

天根「おっす！弥祐！いきなりだがお前は夢を見たことがあるか？」

弥祐「あたりまえだろ」

天根「まあ、そうだよな」

と会話終了。かと思っただが終わりではないらしい

天根「実は今このクラスではある噂が流行っているな」

弥祐「噂？」

天根「そう噂だ・・・どっかのクラスの誰かが夢の中のことをはっきり覚えていて夢の中で

負った傷も実際に目が覚めたら残っていたっていう話だ・・・」

弥祐「そう」

天根「なんだその反応はもつと驚かないのか？」

弥祐「まあ信じがたい話だしな・・・でそれがこのクラス中に広ま
ったと」

天根「そうなんだよ！それでお前はそんな体験したことあるかきき
たかつたんだ」

弥祐「あるわけないだろ？」

天根「まあそんなもんか・・・お前には期待してたのに・・・」

弥祐「勝手に期待して勝手に落ち込まないでくれよ」

・・・だが興味深い話だ。

現実的に考えるとおかしい話だが夢の中で負った傷が残ってるって
いうのが

なによりの証拠だからな。

少しきになるし色々調べてみるか・・・。

そして

それが悪夢への第一歩になるとはこのときの俺は思いもしなかった。

悪夢の始まり（後書き）

これから続きを書き始めようと思いますので
宜しく願います。

不登校の変人（前書き）

第一話です。

よかったらみてください

不登校の変人

俺、櫻弥祐はさくらやすけ

あのクラスで話をきいたあとすぐに家に帰ってパソコンを起動させその噂について調べた。
そして次の日の朝・・・。

弥祐「収穫なし・・・か。」

と落ち込んでいたところにクラスメートの天根緑あまねみどりがやってくる。

天根「おう、弥祐！元気なさそうだな！」

弥祐「お前が元気ありすぎなんだよ！」

・・・と内心では思っているが面倒くさいことになりそうなのでここは言わないでおく。

天根「ところで、昨日のことなんだが・・・」

弥祐「ん、昨日のつてあの噂のことか？」

天根「そう、その噂のことだ」

弥祐「それがどうかしたのか？」

天根「それがな、あの噂を流したのは4組のずばぬけた変人のな「野中美香かみか」らしいんだ」

弥祐「それは、残念なこつたな」

そう、野中美香はすばぬけた変人である
可愛くて、学力優秀、スタイル抜群、だが頭がおかしい・・・とでも言っておこうか。

弥祐「でも野中は今不登校じゃなかったか？」

俺の記憶では今不登校だったはずなんだが・・・

天根「ああ、そうだけど1日だけ学校にきてその体験談を話してまた不登校になったらしい」

弥祐「なんともまあ、でもただそれだけを伝えに学校来るのは変だよな」

天根「だって変人じゃねえか」

弥祐「まあな」

弥祐「まあそれでその話が広まって現在に至るというわけか」

天根「そういうこつたな」

うむ・・・どうにも引つかかるんだよな。

野中が変人なのはわかるんだがそれにしてもおかしい。
お、そうだ

弥祐「そういえば、お前あいつと中学校一緒だったよな？」

そう、天根は東新進中学校という学校で同級生だった。
ちなみに俺は北新進中学校な。

天根「まあ、そうだが・・・それがどうした？」

弥祐「あいつつて、中学のとき学校きてたか？」

天根「ん？お前あいつのときになるのか？」

弥祐「ん、まあ・・・」

天根「え！？まじか！これは大ニュースだ！」

弥祐「いや、そういう意味じゃねえし」

天根「おーい！みんな！今な！弥祐が・・・ぐふう！」

弥祐「これ以上無駄なこといたら殺す。」

天根「はい・・・ごめんなさい。」

弥祐「そう、それで中学のときは学校にきてたか？」

天根「ああ、普通に学校に通っていて中学のときはモテモテだったんだぜ？」

弥祐「通っていたならそれでいいんだ、それより後の言葉はいらない」

ふう・・・こいつはどこまでめんどくさいんだ。

天根「まあ、とりあえず中学のときには普通にきてたよ、こなくなつたのは高校に入ってからだな」

弥祐「そうか・・・お前あいつの家しってるか？」

天根「お前あいつのときにな・・・ぐふう！」

弥祐「いい加減にしろ」

天根「はい・・・ごめんなさい。」

謝るくらいなら最初から言うなってんだ
このやろう。

天根「知ってるけど、お前あいつん家いくのか？」

弥祐「ああ、行ってみようと思う」

天根「しょうがねえなあ・・・じゃああいつん家まで今日の放課後に案内してやる」

弥祐「恩に着る」

2011年11月2日午後4時
野中美香宅前。

続く

不登校の変人（後書き）

みてくださりありがとうございました
これから宜しく願いします

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0714z/>

俺の悪夢の冒険記

2011年12月2日21時09分発行